第1回目フォーラムの振り返り

船舶IoTオープンプラットフォーム構想と ShipDCが担う機能

～Internet of Ships Open Platform～

2017年5月16日

㈱シップデーターセンター
代表取締役社長
永留　隆司

第1回フォーラム（2017年4月17日）

趣旨説明（フォーラムチェアマンからのご挨拶）

東京大学名誉教授

国立研究開発法人 海上 港湾航空技術研究所 理事長　大和　裕幸　様

■基調講演　Ⅰ

海事生産性革命の基盤となるオープンプラットフォームへの期待

国土交通省　大臣官房技術審議官（海事）　大坪　新一郎　様

■基調講演　Ⅱ

IoTデータ利活用促進のためのデータ協調戦略

経済産業省　商務情報政策局　情報経済課　課長　佐野 究一郎　様

■講演　Ⅰ

秩序ある船舶IoTデータ流通に向けたNKの取り組み

日本海事協会　新事業開発本部長　髙野　裕文

■講演　Ⅱ

船舶IoTオープンプラットフォーム構想とShipDCが担う機能

～Internet of Ships Open Platform～

株式会社　シップデータセンター　代表取締役社長　永留　隆司

＞会場

＞パネルディスカッション

■パネルディスカッション

【ファシリテーター】 フォーラムチェアマン　**大和　裕幸**　様

【パネリスト】

三菱重工業株式会社

交通・輸送ドメイン 船舶・海洋事業部　技師長　**上田 直樹** 様

株式会社 商船三井　常務執行役員　**川越　美一**　様

日本郵船株式会社　技術アドバイザー

株式会社MTI　代表取締役社長　**田中　康夫**　様

Napa Japan株式会社　代表取締役社長　**水谷 直樹**　様

日本舶用工業会　新スマートナビゲーションシステム研究会幹事長

寺崎電気産業株式会社　シニア・アドバイザー　**諸野　普**　様

ジャパン マリンユナイテッド株式会社　商船事業本部

技監 商船企画部長　**山田　久行**　様

日本海事協会　開発本部長　**有馬　俊朗**　（氏名五十音順）

■特別講演

KOMTRAX（コマツでの建機データの活用）

コマツ　ＩＣＴソリューション本部　副本部長　三輪　浩史　様

■総括

フォーラムチェアマン　大和　裕幸　様

船舶IoT利活用における課題

ShipDC

現状(Closed Platform)
各社で閉じた利用、選択困難

船舶＝データ発生者

船上データ収集装置A
船上・陸上サーバーA
データ解析アプリソフトウェア
A社

船上データ収集装置B
船上・陸上サーバーB
データ解析アプリソフトウェア
B社

船上データ収集装置C
船上・陸上サーバーC
データ解析アプリソフトウェア
C社

船主　オペレーター　造船所　主機メーカー　舶用機器メーカー
各データ利用者

将来(Open Platform)
関係者が繋がる分業体制により
得意分野への選択と集中が可能に

船舶＝データ発生者

船上データ収集装置A
船上データ収集装置B
船上データ収集装置C
船上・陸上サーバーA
船上・陸上サーバーB
船上・陸上サーバーC
データ解析アプリソフトウェア
データ解析アプリソフトウェア
データ解析アプリソフトウェア

船主　オペレーター　造船所　主機メーカー　舶用機器メーカー
各データ利用者

Internet of Ships Open Platform構想

ShipDC

データ収集・保管プロセスをオープンプラットフォーム化し、各関係者がそれぞれの得意分野に特化することで、サービスの競争、データの利活用を目指します。

PU
プラットフォームユーザー

船主

オペレータ

造船所

ソリューション
プロバイダー

PP
プラットフォーム
プロバイダ

船上の
データ収集
装置・サービス
を提供・販売
する会社

ShipDC
シップデータセンター

送信されたデータ
の集約・保管・標
準化とその提供

その他のデータと
の統合・提供

SP
ソリューション
プロバイダ

ShipDCの
データを利
用したアプリ
ケーション、
サービスの
提供

SU
ソリューションユーザー

船主

オペレータ

船舶管理

乗組員

DB データバイヤー

造船所・舶用機器メーカー・気象会社・保険会社等

データ利用関係者の定義

ShipDC

	役割	内容
船舶 / 船主	データの創出	船舶の運航を通してIoTデータ創出と維持管理を実施
プラットフォームユーザー **費用負担** **Platform User (“PU”)**	**データ収集/データ利用権の管理**	プラットフォームプロバイダーやデータセンターが提供するサービスの費用負担 ソリューションユーザーの認定 利用されるデータセットの許可
プラットフォームプロバイダー **船上基盤設置** **Platform Provider (“PP”)**	**プラットフォームユーザーへのサービス提供者** **※　船上でのデータ収集や船陸通信に関する機器・サービスの提供**	データ収集サービス 船上データ収集機器の売主 (標準化されたデータ)
シップデータセンター **陸上集中データベース** **Data Center (“DC”)**	**データ管理者**	データの蓄積 (標準化されたデータ) セキュリティとアクセスコントロールの管理 気象データなどの外部データと船舶IoTデータの統合 APIを経由したソリューションプロバイダーへのデータ提供
ソリューションプロバイダー **サービス提供** **Solution Provider (“SP”)**	**アプリケーションサービスの提供者**	ソリューションユーザーへのアプリケーションサービスの提供
ソリューションユーザー **サービス利用** **Solution User (“SU”)**	**アプリケーションサービスを経由したデータ利用者**	アプリケーションサービスの利用者
データバイヤー **データ購入** **Data Buyer (“DB”)**	**蓄積されたデータセット利用者**	データセットの利用者

データ利用権についての整理

ShipDC

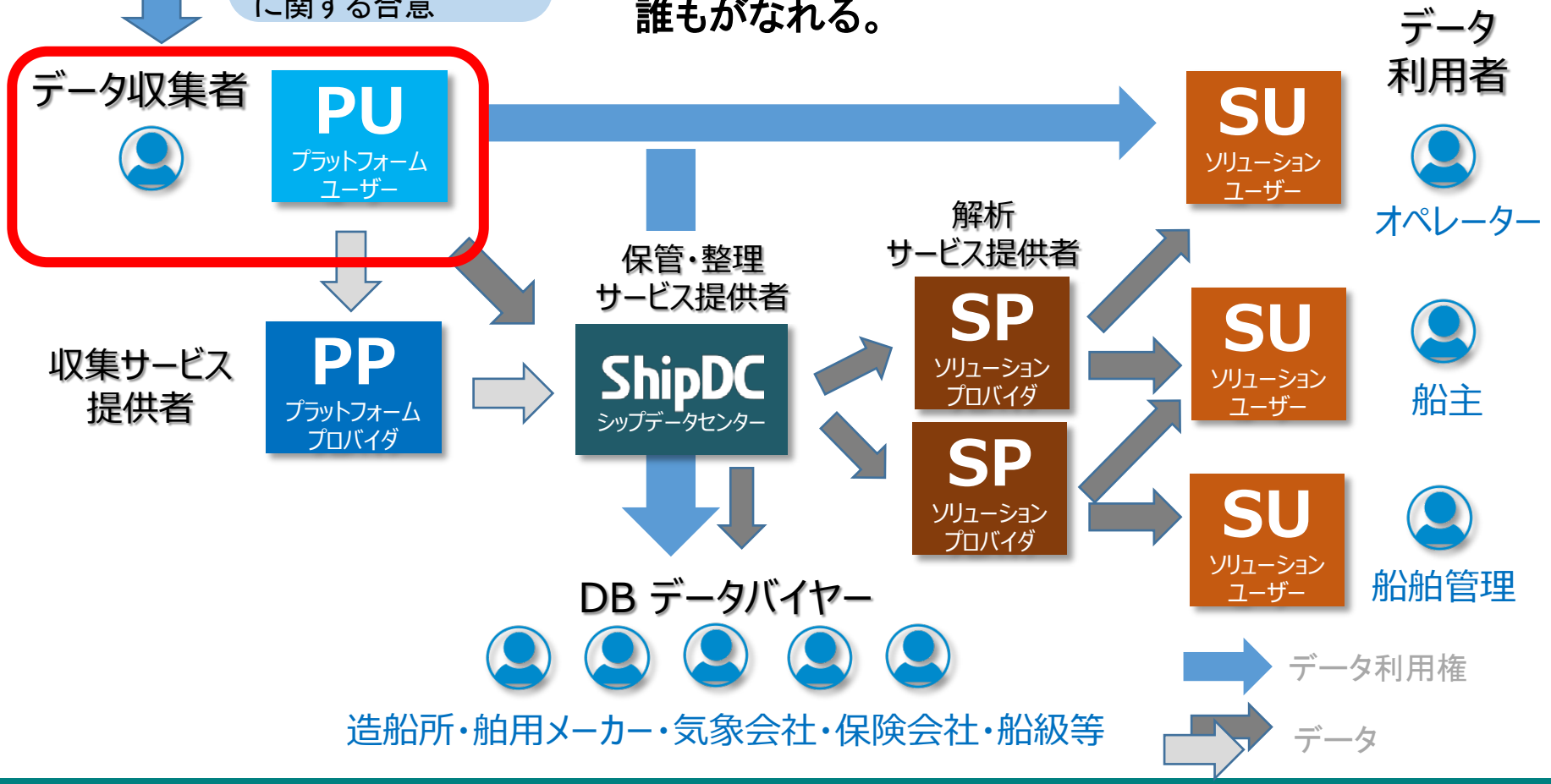
被取得者

船主

データ収集許諾
データ利用権管理
データ品質管理
収集コスト負担
に関する合意

IoSオープンプラットフォームの枠組では
データ収集者＝PUが、船主との合意に基づき、データ利用権を管理する。

データ収集者は、船主との合意により誰もがなれる。



IoSオープンプラットフォームを進める上での論点

ShipDC

1. 共通ルールの整備
    1. そもそもデータは「誰のものか？」
    2. 誰が利用できるのか？

2. データ管理スキーム整備
    1. サイバーセキュリティ(セキュリティとアクセスコントロール)
    2. 船舶データ標準化（ISO）との連携
    3. 不具合データへの対応
        （データ未達・ファイル欠損・データ欠落等）

3. 普及に向けた環境整備
    1. 海事産業関係者の理解と合意

End of File